



## 人差し指のあやまち

**私** たちの手にある5本の指——どの指にもそれぞれ役割がありますが、中でも人差し指は器用で、色々なことに使われます。他の指と比べて、とても速くよく動かし、細かな仕事にも欠かせません。そして、つい間違いを犯してしまうのも、この指です。どんな間違いでしょうか。一番大きいのは、人を指差して、非難したり、あざ笑ったりしてしまうことです。

でも、ある人はこんなことを言いました。「人差し指が誰かを差している時には、他の三本の指が自分のほうを差している」と。誰かのことを批判したり、非難したりするものの、実際にはたいていの場合、自分も同じような間違いをしているか、似たりよったりの問題を抱えているのです。

しかし、自分の悪いところはあまり見えなくても、人の非はすぐに目につくというのが、人の常です。というわけで、「人差し指」は、つい性急に非難がましく人を指差してしまうのです。

このことについて、イエス・キリストも山上の有名な説教でこのように言っています。

「人をさばくな。自分がさばかれないためである。あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう。なぜ、兄弟の目にあるちりを見ながら、自分の目にある梁を認めないのか。自分の目には梁が

あるのに、どうして兄弟にむかって、あなたの目からちりを取らせてください、と言えようか。偽善者よ、まず自分の目から梁を取りのけるがよい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取りのけることができるだろう。」（マタイ7章1-5節）

もちろん、教育や訓練のため、さらにはお互いの向上のために、誰かに注意したり指摘したりする必要も出てきます。だから、この「さばいてはいけない」というのは、何も言わずにただ放っておきなさいという意味ではありません。誰でも時に、人生や仕事において建設的な批評を必要とするものです。ただ、それをする時に、心の内の態度が批判的になったり、非難がましいものとなると、問題が生じるのです。

否定的な態度で批判や非難をするというのは、神のやり方ではありません。それは、自分だけが正しいと考える独善であり、神の愛とは正反対です。聖書には、そうした独善は神の嫌われるものの一つだとあります。

心の中が、批判的な思いや非難でいっぱいの中には、神の愛や恵みが入る余地がなくなってしまうので、人間関係がぎくしゃくしてくるだけでなく、神の祝福も逃してしまいます。人差し指が批判モードに陥って突っ走ってしまうと、人との関係も、神との関係も崩れてしまうのです。

ですから、誰かに対して批判的になっている自分に気づいたら、自分にも同じような弱さがあるか、あるいは、別の面で自分も同じぐらいひどい問題を抱えているんだということを思い出して下さい。そうすれば、それほど厳しい見方をするのではなく、もっと相手のことを愛や理解をもって見る助けになることでしょ